

ひかりのこ

10月園便り
認定こども園
聖ミカエル幼稚園
2024年9月20日

月主題：共感する

今週の火曜日に、礼拝堂で子どもたち全員の礼拝をささげました。この日はチャプレンが東京へ出張中だったため、園長が礼拝の司式をしました。前から見ると子どもたちの表情がよくわかります。一生懸命お歌を歌う姿、お話を一心に聞く表情。一つ一つに感動してしまいます。

特に礼拝が終わって、退堂のとき。子どもたちは、一人ずつ中央の通路に出て、手を胸に当て、前にある大きな十字架にペコリ、と頭を下げます。さっき、お話を寝転びながら聞いていたお友達も、一心に十字架を見つめ、ペコリ。この間まで、椅子にも座っていられなかった年少さんも、ゆっくり前に出てきてペコリ。表情はみんな真剣です。そんな素敵な姿を見ていたら、なんだか涙が出てきました。

私は、生まれたときから、両親がミカエル教会に通っていたため、礼拝堂は当たり前にあったし、神様も当たり前私にありました。今でもそれは変わらないはずなのですが、いつしか神様にも礼拝堂にもお祈りにも慣れっこになっていたような気がします。子どもたちの姿に、はっとさせられました。

今週の日曜日のミカエル教会の礼拝に、9年前に卒園し、今は高校生になった女性がお友達と一緒に訪ねてきてくれました。キリスト教系の高校に通っているの、授業の一環で、どこかの教会に行くことになっていたようです。それで真っ先にミカエル教会が頭に浮かび、来てくださったようです。

子どもたちの心のどこに、どのような姿で神様はいらっしゃるのでしょうか。そして、大人になってもそれはうっすらでも心に残っていくのでしょうか。いろいろと、考えさせられました。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「バトンリレー」

運動会の数ある種目の中で、バトンリレーは、子どもたちみんなが順番に力を発揮してゴールを目指す種目です。自分の子どもが走り終わった後も、一生懸命に前に向かって走る子どもたちの姿を、先生達、同じチームの子ども達、運動会の応援に集まったみんな最後まで手に汗握りながら見守ります。バトンを渡した子は次の子が転ばないように、またその次の子に無事に渡せるように、もしも先頭を走っていたら追い越されないように、遅れていたら前の子に追いつけるようにと、それぞれが全力で最後まで応援します。

子ども達と家族の間にも同じ眼差しがあります。先に人生を歩んできたみなさんは、成長の壁を乗り越えてきた人生の第1、第2走者です。そして子ども達は今、毎日ひとつずつ成長へのチャレンジを乗り越えて走っている真っ最中です。どうかバトンを落とさず、怪我のないように、転んでも、立ち上がってまた走りだせるようにと共に見守り、祈りましょう。

「キリストによって、体全体は、支えとなるすべての節々でつなぎ合わされ、一つに結び合わされて、それぞれの部分は分に応じて働いて、体を成長させ、愛の内に造り上げられてゆくのです。」

エフェソの信徒への手紙4章16節

チャプレン 司祭 上平 更

